



沖縄で文学すること

～沖縄文学の過去・現在・未来～

2022年10月22日(土)

14:00～16:00

オンライン開催
※Zoom
カビナー

復帰後50年、今、言葉の力が試されています。言葉の最もラディカルな格闘の現場の一つに沖縄文学の戦後77年の軌跡があります。沖縄文学の過去を踏まえた上で、これからの沖縄文学の

方向性を見ていくためにシンポジウムを開催します。小説・詩・短歌・俳句の実作者をお招きし、発言をクロスさせ議論を深めていくことにより、表現の可能性を探っていきます。

第2部 パネルディスカッション

15:00～16:00 「沖縄で文学することの意味」
【コーディネーター】崎浜 慎(作家)

【登壇者】



富山 陽子(小説)

1959年那覇市生まれ。県内の特別支援学校に勤務する傍ら小説を執筆。根っこである沖縄をテーマとする。琉球新報児童文学賞、新報短編小説賞、新沖縄文学賞受賞。

トーマ・ヒロコ(詩)

1982年、浦添市生まれ。第2詩集『ひとりカレンダー』で第32回山之口獏賞受賞。最新詩集は『パスタを巻く』。ポエトリーリーディングを行う。うらそえYA文芸賞、神のバトン賞、文化の窓エッセイ賞選考委員。



屋良 健一郎(短歌)

1983年、沖縄市生まれ。名桜大学国際学群上級准教授。2004年に竹柏会「心の花」入会、佐佐木幸綱に師事。「澁」同人。共著に島村幸一・小此木敏明・屋良健一郎『訳注 琉球文学』(勉誠出版、2022年)。

安里 琉太(俳句)

1994年、与那原町生まれ。銀化・群青・澁同人。句集に『式日』。同著にて第44回俳人協会新人賞受賞。その他、第16回銀化新人賞、第56回沖縄タイムス芸術選奨奨励賞など。



第1部 基調講演

14:00～14:50 「言葉の力を求めてー
沖縄文学の特質と可能性」

講師:大城 貞俊(作家・元琉球大学教授)

1949年大宜味村生まれ。作家、元琉球大学教授。1992年小説「椎の川」で具志川市文学賞。その他、山之口獏賞、文の京文学賞、さきがけ文学賞などの受賞がある。近著に小説『この村で』『螢の川』など。



★視聴無料(10/20(木)16時まで必要事前申込)★ ※講座終了後、簡単なアンケートにご協力ください。



申込先【Googleフォーム QRコード】

●氏名・連絡先・所属等を入力の上送信してください。
Wi-Fi等ネット接続ができる環境で、PC・スマホ・タブレット等から視聴できます。お申し込みされた方には、講座開始前日までに、接続先の情報(ログインURL)をメールでご案内します。前日17時までに案内メールが届かない場合は下記までお問い合わせください。



今後の講座案内をご希望の方は、地域研究所LINE友達申請をお願いします。

問い合わせ先:沖縄大学地域研究所(沖縄県那覇市国場405)

窓口:平日8:30～17:15(12:00～13:00閉室)

Tel:098-832-5599 Mail:chiken-staff@okinawa-u.ac.jp